特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター　事務局通信

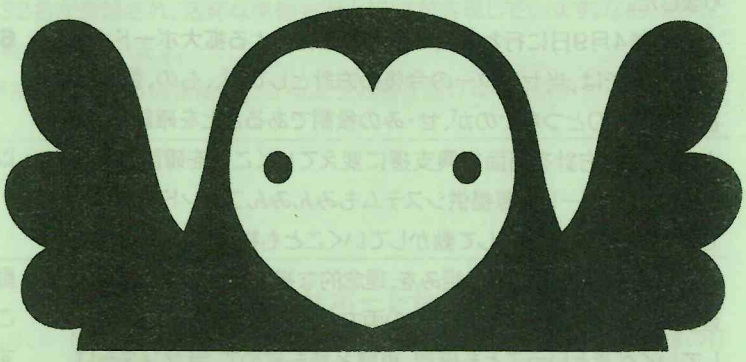
2011年5月5日　Vol.75

みみんん

【題字】谷川俊太郎さん

震災特集号

※震災のため、通常より紙面を縮小しておりますこと、ご了承ください。



ガンバレトーホク
ガンバレ
ミンミン

■目次

P2　代表理事からのメッセージ

P3　関連組織紹介、各施設からのご案内

P4　新規・継続会員、新スタッフ紹介、連絡先等

「3・11大震災と大津波による災害の復興に向けて―せんだいみやぎNPOセンターの方針」

代表理事　紅邑晶子

3・11に起きた大震災と大津波による災害が起きてからの私たちの生活は、今もって不安を持ち合わせて生き続けています。すべてを失った人たちを支えていくことも、共にここに生きる私たちの責任です。天災にあらがうことはできなくても、それに耐えうる工夫や智恵を出すことはできるはずです。

当センターも、発災後に事務局はもちろん管理しております各施設も被災し、その後の確認や修復のための時間がかかりましたが、3日後には地元の災害復興に関する情報発信をHPとブログにて開始しました。また、震災直後3月18日に行われた理事会では、被災地復興支援に向けて取り組むべき当センターの役割を検討した結果、「みやぎ連携復興センター準備室」を立ち上げることとしました。これは、被災した私たちの地域を支援したい人や団体と被災地で活動してきたNPOをつなぎ、より多くの被災者の支援を行い、地域の復興に貢献するという仕組みです。その後、いくつかの団体との出会いがあり、3月25日には準備室を取り、5団体による「みやぎ連携復興センター」（＊1参照）が誕生しました。なお先の理事会では、病気療養中の加藤代表理事からの提案で、常務理事・事務局長であった紅邑を代表理事に加えることが決定され、当センターは3人の代表理事体制で動くことになりました。

その後4月9日に行われた理事と管理職による拡大ボードメンバー会議では、当センターの今後の方針として、人、もの、資金を被災地、NPOとつなぐのが、せ・みの役割であることを確認し、重点的な活動方針を当面復興支援に変えていくことを確認しました。また、サポート資源提供システムもみんみんファンドを軸にして復興支援のしくみとして動かしていくことも提案されました。

一方で、復興支援の取り組みを、理念的な視点と今までの流れの延長線でどうなるかという視点の両方を持って、5年ごとに評価をしていくべきということも確認。組織名称も含めて、当センターは、「日本の文化を変えていく」くらいの気持ちを持って、復興支援に関わる国や行政の計画、提案、施策の評価をし、提言ができるようになっていかなければならないとの意見もありました。

この1か月、当初予定していたほとんどの会議や事業は中止となり、代わりに多くの団体や個人、研究者、政治家や各省庁などが当センターをめがけて訪れ、その対応に忙殺された状態でした。受け取った名刺はなんと200枚を超えました。さまざまな方々とのたくさんの議論の結果、私たちは、当センターの今後の活動方針として、

1、当面すべての事業を復興支援にシフトした活動とする。

2、宮城にとどまらず、津波により被災した岩手・福島の3県の市民活動組織と連携して市民による協働の復興計画を策定し、さらには青森・秋田・山形とも協力して、東北エリア全体の地域活性・復興に向けて取り組む。

3、宮城・仙台における被災者支援についても、特に、これまで関係してきた仙台市・多賀城市・名取市・岩沼市と協力して取り組むが、他地域についても、多様な組織との協働によって取り組みを進める。

4、仮設住宅や在宅被災者への支援についても、地元のコミュニティやNPO、生協、労働団体、世界的な活動をしてきたNGOや企業とともに取り組む。

5、救援や復興にかかわるNPOや各種市民団体に対するヒト、モノ、カネ、情報などの支援を進める。

6、以上の活動や取り組みを踏まえて、災害復興におけるまちづくりにむけて、積極的な政策提言を政府や地方自治体、企業、市民社会組織に対して行う。

以上のようなことを掲げていきたいと思います。

なお、災害復興を中心とする活動にシフトしますが、NPOの活動支援、企業との連携や自治体支援、コミュニティ支援といったこれまでの取り組みをより強化していくことも復興に大きく貢献すると考え、合わせて進めていく方針を確認しました。

最後に大震災からの復興支援に向けて、当センターの活動にも、会員の皆様はじめできる限り多くのかたがたからのご協力ご支援を願っております。

＊1　**みやぎ連携復興センター**・・・当センターを含めた5団体の連携により運営。団体間コーディネート（連携・マッチング・サポート）を行っています。

＜連携5団体＞被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト（略称：つなプロ）、認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム、公益社団法人仙台青年会議所、一般社団法人パーソナルサポートセンター、NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター

被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト

「被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト」、略称「つなプロ」は、仙台・東京・関西のNPOと日本財団による合同プロジェクトです。震災発生三日後の3月14日に結成されました。避難所における立場の弱い方々、お年寄、乳幼児、障がい・病気をお持ちの方等を主たる対象として「避難所でのこれ以上の状況悪化者・死者を出さないこと」をミッションとしています。具体的には、60～100人規模の調査ボランティアを派遣し、宮城県全域の避難所に対して3月28日から5週間連続のアセスメント（調査）を実施、避難所での課題と困りごとを「発見」します。さらに、発見した課題への対応力を持つNPOや医療機関へ「つなぐ」ことで、立場の弱い方々を支えます。つなプロは、4月いっぱいはこのアセスメントからマッチングまでの仕組み作りに徹し、5月以降は確立したマッチング機能をせんだい・みやぎNPOセンターはじめ地元のNPOに徐々に移管をはかることで被災地・被災者が主役の復興をサポートしてゆくつもりです。（つなプロ現地本部長　佐野哲史）

みやぎ連携復興センター

3月18日の定例理事会で決定されたみやぎ連携復興センター（略称：れんぷく）準備室は、その後、4つの団体との連携により、同月25日正式に始動することになりました。れんぷくでは、基本的に被災地や被災者を支援したい団体と地元で被災者支援に当たる団体間のコーディネート（連携・マッチング・サポート）を行います。主な取り組みとしては、人的・知的資源の提供、資金助成、物品の仲介、支援を必要とするNPOからのニーズの集約など。災害復興に向けての取り組みは、さまざまな被災者支援活動にあります。そのためには地域の問題解決に取り組んできたNPOはもちろん、企業、そして大学や様々な団体など、民間同士の連携が必要です。れんぷくでは、宮城・東北の復興に向けて、異なるネットワークを持つ5つの団体がそれぞれの強みを生かして未来あるわたしたちの故郷を創ることにチャレンジしていきたいと思います。（紅邑晶子）

大震災NPO連携ネットワーク会議

3月11日に起こった大地震。直後の混乱の最中より、多くの地元NPOが各地で支援活動を開始。1週間後、民間支援者会間の相互協力を図るべきと声が上がり、3月19日、仙台市福祉プラザに約40団体、60名を超える方々が集まり初回会議を開催しました。（呼びかけ人：当センターやパーソナルサポートセンターなど7団体）

会議の結果、互いの活動を尊重しつつ相互協力することが確認され、まずは定期会議をセットすると共に、参加者のメーリングリスト（以下ML）を開設しました。3月31日現在、会議は既に5回、MLは132名が登録され、活発な情報共有と協力が実現しています。なお、物流と子どもに関わる部会も設置されており、具体的な協力体制の構築が進んでいます。

今後も部会やMLで協力を図り、県外も含めた多くの支援者に参加いただける情報基盤となるよう活動を続けます。（理事　渡辺一馬）

各施設からのお知らせ

●大町事務局

「みやぎ連携復興センター」（http://flat.kahoku.co.jp/u/renfuku/）、「被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト（http://blog.canpan.info/tsunapro/）」、「大震災NPO連携ネットワーク会議」など、復興支援に大忙し稼働中。NPO復興活動応援基金として、4団体に110万円の助成も！

●仙台市市民活動サポートセンター

NPO等の復興支援サポート拠点として開館中。被災者・復興支援の打合せ、情報収集等に利用頂けます。サポートセンター及びシニア活動支援センターの事業は休止し、復興支援活動のサポートを行なっています。開館期間は3月28日～2011年9月30日、開館時間は、5月1日から通常通り（平日9時～22時・日、祝9時～18時）です。

●多賀城市市民活動サポートセンター

センター入居施設の安全が確認された為、5月31日までの期間は震災復旧活動の拠点として仮開館し、市内外のNPOや町内会などに利用されています。この間の開館時間は9時から17時で無休、通常開館は6月2日からの予定です。詳しくは当センターホームページをご覧ください。なお2階では被害を受けた保育園を5月末（予定）まで受け入れています。

●名取市市民活動支援センター

施設の損傷が激しく現在休館中。地震発生後、利用者・スタッフ共に館外へ避難したため、幸い人的な被害はありませんでした。運営再開の見通しは立っておりません（施設は立ち入り禁止）。このため、現在はスタッフブログで名取市の復興の様子や市民活動団体の活動を紹介しています。http://blog.canpan.info/natori

サポート・ご協力　ありがとうございます

■平成 22 年度会員(敬称略・順不同、2011年2月1日～3月31日)

(正会員)増子良一、西出優子、渡辺一馬、小島誠、松山風土研究会、加藤哲夫、小松州子

(準会員)渡辺雅昭、(特)塩釜市体育協会、上野和弘、(有)平野印刷所、片平たてもの應援團、小浜耕治、早坂恵美、川崎あや

■平成 23 年度会員　(準会員)早坂毅

■企業・団体協力(50 音順、敬称略)

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて)、富士ゼロックス宮城(株)(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

東日本大震災　被災者支援活動・緊急募金への寄付　**39件**(個人・団体)　**2,939,327円**(3月末)

新スタッフ紹介

阿部 明日香(アベ アスカ)

勤務地：

多賀城市市民活動サポートセンター

今年の春に大学を卒業しました。猫と音楽と手芸が好きです。今年で 14 歳になる猫と仲良く暮らしています。これからたくさん勉強をして、社会人としても、NPO に関わる者としても、成長していけたらと思います。何卒ご指導ください。よろしくお願いします。

堀 隆一(ホリ リュウイチ)

勤務地：

仙台市市民活動サポートセンター

1956年生まれ54歳。上杉謙信生誕の地、越後は春日山の麓、高田町(現在は上越市)に生まれ、同県新潟の新発田市にて育ちました。縁あって、東北学院大学に入学し、以来35年超仙台に在住し続けて現在に至ります。趣味は、「海釣り」サーフキャスティングと舟釣りにはまっています。

難波 未由希(ナンバ ミユキ)

勤務地：

仙台市市民活動サポートセンター

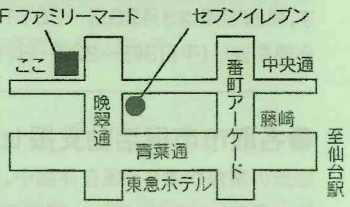
山形県鶴岡市出身の、難波未由希です。2月1日に仙台市民になり、分からないことばかりですが、NPO や市民の方々のパワーに心強さを感じています。みなさんのサポートができるよう精一杯がんばりますので、よろしくお願いいたします。

連絡先

特定非営利活動法人　せんだい・みやぎ NPO センター
〒980－0804　仙台市青葉区大町 2－6－27　岡元ビル 4F
TEL：022－264－1281　FAX：022－264－1209
E-mail：minmin@minmin.org　HP：http://www.minmin.org/

発行：(特活)せんだい・みやぎNPOセンター

代表理事　大滝精一・加藤哲夫
紅邑晶子
編集部：小川真美
発行日：2011 年 5 月 1 日
デザイン：氏家朗



岡元ビル 4F　仙台駅から徒歩 20～25 分

編集後記

気がつくと、もうゴールデンウィークがやってきていた。3.11 から今まで何をやってきたか？あまりに目まぐるしく、かつ多種で初体験で、具体的なことが思いだせないが、一生懸命生きようとしてきたことには違いない。そして、せんだい・みやぎ NPO センター職員としての役割を、最大限こなそうと努力してきたことも確かである。これから本格的に復興のフェーズに入っていく。仙台人として、東北人として、日本人として、そして、せみ職員として、やるべきことを粛々と進めていこうと思っている。(Ogawa)

震災後、初対面の方と「あの時どうしていた？、震災後の数日はどう過ごした？」という話しをすることが増えました。ちょっとだけ人と人の距離が近くなったようです。失ったものは大きいですが、代わりに生まれたものや復活したものもあると思います。それは、人を思いやる心だと。被災した厳しい生活環境のなかでは、誰もがそんな気持ちを持てないかもしれませんが、そんななかでも被災した子どもたちが自らボランティア活動をする姿があります。遠くの地域の方たちが応援に駆けつけてくださったり、困難な仕事を引き受けてくださる方たちも大勢いらっしゃって、感謝することがたくさんあります。毎日、みんなが笑顔になれる日が来ることを願って、わたしなりにお役にたてることを担っていきたいと思います。(紅邑晶子)

NPO法人認証団体数｜宮城県585団体 11年4月14日現在｜全国42,120団体 11年2月28日現在(内閣府)｜認定NPO法人数全国205団体 11年4月16日現在